

令和元年度第2回はんだ環境パートナーシップ会議録

開催日時	令和元年9月24日（火） 13時30分～15時30分				
開催場所	半田市役所301・302会議室				
会議次第	1. あいさつ 2. 議事 (1) 平成30年度実績に対する提案について (2) 環境保全ポスターコンクール優秀作品の選考について (3) 10年分実績評価について 3. その他				
出席委員 ※敬称略	会長	千頭 聡			
	副会長	石川 由弘			
	委員	藤田 純代	平林 明美	深谷 進一	
		藏谷 善次郎	和喜田 恵介	桑田 八重子	
		牧野 純子	神戸 繁明	近藤 倉治	
榊原 正躬		鈴木 俊行			
出席職員 事務局	課長	大嶽 浩幸		主査	森下 直孝
	主査	中村 裕道		主事	青木 大介

次 第	議 事 概 要 各委員の発言は、市民・団体の代表としての発言ではなく、あくまで個人としての発言です。
1. あいさつ	－会長あいさつ－（略）
2. 議事	<p>（1）平成30年度実績に対する提案について</p> <p>－事務局資料に沿って説明－</p> <p>（事務局）</p> <p>議題1においては、パートナーシップ会議としての平成30年度実績の提案を決めていただきます。</p> <p>第1回会議のご意見を基に、前回提示しました皆さまからの「評価・意見（平成30年度実績分）まとめ」から、事務局で評価・提案書の案、提案以外を作成しました。</p> <p>提案内容を会議内で大方決めていただき、事務局で作成します。事務局が作成したものを委員の皆さまに確認していただき、パートナーシップ会議としての提案とさせていただきます。</p> <p>（千頭会長）</p> <p>まずは、柱1の提案からまとめていきます。</p> <p>第1回会議から、矢勝川の水質悪化の対策を検討すること、また畜産臭気対策などが考えられます。</p>

(事務局)

昨年度、この会議で水質状況を市民に伝えるべきとご指摘をいただいていた。現在ホームページにて、平成28年度から平成30年度まで過去3年分の5河川の水質結果を掲載しています。

(近藤委員)

ホームページでは、自ら見に行かないと情報を得られない。市報などで掲載することや地域住民に周知することを考えていただきたい。

(事務局)

検討します。

(榊原委員)

十ヶ川などは、水量が少なく、矢勝川より汚いと思っていた。また、BODの値がほぼ一緒であるため、不思議に感じる。信用できる値なのかとってしまう。定点調査の状況があいまいではないだろうか。

参考資料のBODの値は、どのような平均なのか。

(事務局)

水質は、毎月測定しています。矢勝川については、測定地点を2ヶ所設けており、その1年間の平均となります。

また、BODの値は月によって違ってきます。我々も、委託業者から提出される測定結果を信じるしかありません。

(近藤委員)

矢勝川の水質悪化の原因は、分からないのか。

(事務局)

水量が少ないことが1つの原因かと思えます。水量が少ないと、BODの値はどうしても上がってしまいます。

(千頭会長)

汚濁源は、ある程度推測できるはず。仮説を立てたら、雨天時測ったり、いろいろなポイントで測定したりするべきである。

(事務局)

まさに会長が言われるとおりです。毎年、漫然と2ヶ所を図っています。測定地点を増やしたり、気象状況も考慮しながら測定したりすれば、何が原因かは分かると考えます。そのための来年度予算もとっていきます。

(千頭会長)

ぜひお願いします。

(榊原委員)

漫然でも、環境基準の経年変化を見ていることには価値があります。しかし、気象条件が違う中で調査しているとなれば、話は違ってきます。

(鈴木委員)

千頭会長が言われる原因究明調査として、初期降雨の時などに採水することは確かに価値があります。しかし、環境基準の維持達成状況の把握について環境省の通知に示されている河川の水質調査方法では、採水日前において比較的晴天が続き水質が安定している日を選ぶこととされています。

それを踏まえ、原因究明調査とは別に、干潮時に採水するなど榊原委員が言われる気象条件を同じにすることも条件に加え、環境基準の経年変化をみるべきと私は思います。

(千頭会長)

それでは、柱1の提案は、「矢勝川の汚濁源調査をしっかりと実施すること」と「矢勝川の水質改善に繋がる対策を検討すること」でよろしいでしょうか。

《異議なし》

(千頭会長)

続いて、柱2に移ります。

(近藤委員)

柱2は、庁内評価対象数38に対し、16がB評価であり、我々の評価もB評価が8人いることは、まだまだ課題があることが読み取れます。

(千頭会長)

具体的な提案はありますか。

(近藤委員)

太陽光発電システムは、CO₂の削減に一定の効果がある。地球温暖化対策として、太陽光発電システムなどの補助も見直すべきではないだろうか。

[平成27年度まで太陽光発電システム補助実施]

(神戸委員)

太陽光発電システムはメリットとデメリットがあるが、市の見解はどうか。

(事務局)

確かにパネルの廃棄問題のデメリットがあります。現在は、FIT制度での買取期間が終了する住宅が順次発生する中、蓄電池の補助を検討していました。また、今後は国・県の動向を見守りながら検討していきたい。

(千頭会長)

県は、太陽光発電システムの単体補助を取り止め、HEMS、蓄電池、エネファームなどの単体補助、もしくは一体的導入も取り入れ始めています。

(近藤委員)

先日の千葉における停電も参考にしなければなりません。個人の補助も進める一方で、防災の観点からも公共施設に太陽光発電システムと蓄電設備を設けるべきです。

(事務局)

公共施設だと、ここ市役所本庁舎と福祉文化会館に蓄電設備が備わっています。

(千頭会長)

それでは、柱2の提案は「HEMSなどの住宅用地球温暖化

対策設備の補助金制度を導入すること」、「公共施設に蓄電設備を検討すること」でよろしいでしょうか。

《異議なし》

(千頭会長)

それでは、柱3に移ります。

(近藤委員)

庁内評価でCの評価の事業があるが、それは何か。

(事務局)

耕作放棄地の解消と活用です。

(近藤委員)

地産地消を進めている中で、学校給食がほとんど使用されていないのは驚いた。約 11,000 食の一括管理ではなくても、1部の学校での使用も検討されたい。

また、知多牛は高価なため、家庭では食べる機会がないと思う。子どもたちには、地元を知多牛があることを認識される意味でも、予算をつける検討をし、年に1, 2回は食べさせてあげたい。

(石川委員)

半田市産のものでなければ、知多半島産や愛知県産などを使用しているのか。

(事務局)

できうる限り使用していることは確認しています。

(近藤委員)

耕作放棄地の問題は、空いているところをどう活用するかだ
と思う。作り手が減少していく中、作れ、作れでは問題解決に
はならない。

生ごみを堆肥化する施設を作り、家庭菜園を推奨するといっ
たモデルケースを検討してみてもはどうだろうか。ごみの減少に
もつながると思う。

(榊原委員)

C評価の件だが、基準値と目標値を線で結び、達成できてい
るか機械的に判断しているため、そもそも目標値の設定に疑問
を感じる。目標値を低めに設定すれば、いい評価になる。

(事務局)

目標設定については、次期計画を策定委員会で検討させてい

ただ。また、次回会議で「新計画に対する意見」をまとめさせていただきます、策定に反映させたいと考えています。

(牧野委員)

耕作放棄地は、市が借りて小学生の農業体験などできないだろうか。また、そもそも耕作放棄地は点在しているのか、ある程度大きな放棄地があるのか。分布図を示してほしい。耕作放棄地の大きさでも活用の仕方は変わると思う。

(千頭先生)

それでは、柱3については「耕作放棄地の分布を示すこと」「耕作放棄地の活用を検討すること」でよろしいでしょうか。

《異議なし》

(千頭会長)

続いて、柱4に移ります。

(桑田委員)

戦争関連の資料がまとめられていないと感じる。例えば、豊川市には戦争遺跡を保存活用した（海軍工廠）平和公園がある。公園内には戦争遺跡の解説展示している施設もあり無料である。

半田市も平和宣言をしており、中島飛行場跡地などもある中、

戦争歴史の資源を継承するために、市として力を入れるべきではないか。

(千頭会長)

それでは、柱4は「戦争歴史の資源を継承するための整備を検討する」としましょう。

《異議なし》

(千頭会長)

柱5に移ります。

(近藤委員)

環境学習イベント参加者数やアダプトプログラム登録者数が増加し評価できるが、今後は次にやるべきこと提案していけたらと思う。プラごみ、ごみ問題は取り組んでもらいたい。ゴミ袋の有料化だけでは解決できないと思っている。

スウェーデンの16歳の環境活動家が注目され、世界中の若者も影響を受けた。

若い人たちの環境意識を高め、若い人たちが参加できる仕組み作りを考えてほしい。

(千頭会長)

大事なことです。それでは、「プラごみ、ごみ問題において、若い人たちの意識を高め、若い人たちが参加できる仕組み作りを検討してほしい」としましょう。

《異議なし》

(千頭会長)

それでは、議題1全体をとおして、ご質問などありませんか。

(神戸委員)

先回の第1回会議で伺った「エコファミリーを活用した半田市独自のCO₂排出量」の進捗状況を伺いたい。

(事務局)

エコファミリーから提出がなされた環境家計簿を積算したところ、県の数字を使用した案分方法と同じような数字でした。市民に分かりやすいものとして、どう活用していくか検討しています。

また、第2次環境基本計画にどの指標を使用するかについては、策定委員会で決めていきます。

	<p>(千頭会長)</p> <p>項目毎でまとめて行く作業は私と事務局でまとめた後、委員の皆さんに確認していただき、はんだ環境パートナーシップ会議の提案としてよろしいでしょうか。</p> <p>《異議なし》</p>
	<p>(2) 環境保全ポスターコンクール優秀作品の選考について</p> <p>(事務局)</p> <p>環境保全ポスターコンクール優秀作品の選考していただく。</p> <p>ー資料に沿って説明ー (略)</p> <p>《説明後、各委員が選考、最優秀賞2点と優秀賞9点を決定》</p> <p>(事務局)</p> <p>募集方法などご意見がありましたら、お伺いしたい。</p> <p>(榊原委員)</p> <p>環境保全ポスターコンクールは、参加賞はないのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>昨年予算要求の際、他のコンクールに合わせるようにと指摘があり、来年度より参加賞はなしとしました。</p>

(榊原委員)

参加賞がないのは反対である。子どもたちにとって、参加賞があるかないかは重要である。参加賞があることで、取り組む子どもたちもいる。環境について考えるきっかけになる。

(藤田委員)

学校では、ポスターの募集については一覧表にして子どもたちに渡します。良いか悪いか参加賞に釣られて応募する子もいる。ポスターは、標語や習字と違い、時間がかかるので、参加賞があればとは思いますが。

(近藤委員)

もったいないバザールの収益は充てられないのか。

(榊原委員)

以前、もったいないバザールの収益は、環境保全ポスターコンクールの参加賞など、環境に関する事業に使うということではなかったのか。

(事務局)

そのようなことは初めて聞きました。

(鈴木委員)

ごみの有料化も始まるので、ポスターコンクールは親子で考えるきっかけになればと思う。税収も増えるので、参加賞は、継続でもよいと思う。

(千頭会長)

私も反対である。市が主催する他のポスターコンクールが参加賞を出していないことが問題であれば、スポンサーなどをみつけて継続してはどうだろうか。私たちの総意としては、参加賞は続けて欲しい、そのための方策を検討してほしい。

(事務局)

承知しました。

(神戸委員)

今回、中学生の応募が多く内容が充実しているが、何か変更したことはあるのか。

(事務局)

美術の授業で書いてくれた学校があります。学校への案内を早くしたことの効果と思われます。

(藤田委員)

1学期に「ポスターを書こう」という単元があります。それに間に合えば、先生達は課題にしてくれると思います。授業で書くだけで終わってしまうより、ポスターコンクールに応募ができるとなれば、子どもたちはやりがいをより感じられると思います。募集要項を早くいただけたらと思います。

(事務局)

承知しました。

(3) 半田市環境基本計画に関するプレ評価（10年分）について

—資料に沿って説明—（略）

(事務局)

半田市環境基本計画は平成30年度に、策定してから10年が経ちました。平成31年2月に総合計画との整合性を図るため、計画期間を2年延長し、令和2年度までとしています。10年経過した節目で、一旦、最終評価をし、次期計画に反映させるために実施します。

(千頭会長)

それでは、「柱1 ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち」から始めます。資料3のとおり、委員の皆さんの評価はAが11名、Bが1名です。

A評価としてよろしいでしょうか。

ただし、議題(1)でも話題になりましたが、矢勝川の水質など個別には問題があります。

ご意見はありませんか。

<意見なし>

それでは、A評価としてよろしいでしょうか。

《異議なし》

(千頭会長)

次は、「柱2 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち」です。委員の皆さんはB評価が10人、A評価が2名です。

皆さんの評価からすれば、B評価ですが、A評価になるようなご意見はありますか。

<意見なし>

それでは、B評価としてよろしいでしょうか。

《異議なし》

(千頭会長)

「柱3 豊かな自然を守り、自然と共生するまち」に移ります。委員の皆さんの評価は、Aが10名、B、Cが1名ずつで多少評価が割れています。

特に、B、C評価を付けられた方にご意見を伺いたと思います。

(近藤委員)

C評価は私が付けました。公園は、目標は達成しているが、満足度や遊具の老朽化など質の問題があると思う。また、耕作放棄地の問題は今後も増えていくと予想され、解決策が見いだされていないと感じる。そのため、厳しい評価にした。

(深谷委員)

耕作放棄地には、クラインガルテン（滞在型市民農園）も検討してみてはどうだろうか。茨城県の笠間市のクラインガルテンには関東全域から集まっている。

(近藤委員)

豊田市足助にもクラインガルテンがある。そこは、小川の水

力発電や、太陽光発電も利用している。ログハウスがあり宿泊ができる。半田ではここまでは無理だと思うが、市民農園に収穫したものをその場で食べられるといった付加価値をつけて、耕作放棄地の解消に繋がればよいと思う。

(千頭会長)

それでは、柱3は、耕作放棄地、ため池や手入れの進んでいない竹林などを、場所の特徴を捉えた上で、市民が憩いを感じたり、自然と触れ合えたりする場など、より積極的に有効活用できる検討をしてほしいことを加え、A評価としてよろしいでしょうか。

《異議なし》

(千頭会長)

柱4 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にするまちに移ります。委員の皆さんの評価はAが11名、Bが1名です。

資料には、先程の議題1、30年度の評価の際、話にあがった戦争関連の記載もあります。

「今後の課題」の欄ですので、「戦争関連の資料が整備されていないように感じる」を「整備すべきだ」に表現を変更し、A評価としてよろしいでしょうか。

《異議なし》

(千頭会長)

最後、「柱5 みんなで環境を守り育てるまち」の評価です。委員の皆さんの評価はAが10名、Bが2名です。

Bをつけられた方に課題をご指摘いただきたいと思います。

(近藤委員)

プラごみを重視した取組を行ってほしいと思い、B評価をつけました。市民だけでは改善できない。製造メーカーと話をしながら、双方向で改善できればと考えている。

(千頭会長)

近藤委員のご指摘は、資料3・10ページの上から3つ目に記載はあるが、プラごみ対策をもう一步踏み、脱プラを掲げたほうがいいでしょうか。

(近藤委員)

脱プラを掲げるべきだと思う。阿久比町のプラゴミ学習会に参加したが、その講師の大学教授の話では、中国では、農ポリを2020年で80%回収率を目指していると聞いた。日本ももっと取り組んでいくべきだと思う。

(榊原委員)

脱プラを掲げることに賛成です。

(千頭会長)

それでは、脱プラ対策に向けて、製造メーカーと協働した環境学習を取り組んでほしいを追加し、A評価としてよろしいでしょうか。

《異議なし》

(千頭会長)

それでは、この会議での環境基本計画の10年分実績評価は、柱2をBとし、柱2以外をAとします。事務局はこの評価と皆さんのご意見を次期計画につなげてください。

特に、柱2は毎年評価が厳しく、また、社会は温室効果ガス削減から、脱炭素にシフトしているので、より踏み込んだ施策を期待します。

(事務局)

承知しました。

(3) その他について

(千頭会長)

全体を通して、ご質問などありませんか。

(神戸委員)

資料にバイオマス発電が2ヶ所あると記載があったが、10月から始まったクリーンセンターで資源化している刈草・剪定枝も使用しているのか。

(事務局)

クリーンセンターで収集している刈草・剪定枝は使用していません。国内外の木材チップや海外からのヤシ殻など使用していると聞いています。

(榊原委員)

第2次環境基本計画はいつから策定作業に入るのか。

(事務局)

来年度からになります。

(榊原委員)

柱など計画の体系は同じになるのか。

(事務局)

現時点での事務局の考えは同じような体系を考えています。しかしながら、策定委員会を立ち上げ、その中で体系も決めていきますので、同じにならないこともありえます。

(榊原委員)

目標値の設定、基準値の捉え方で評価も大きくかわるので、設定については、しっかり考えていただきたい。

(事務局)

指標、目標値については、これまでも委員の皆さまからたくさんのご意見をいただいていますので、策定委員会で報告し、反映させていきたいと考えています。

(千頭会長)

どういう指標にするかも課題です。最後に事務局から連絡事項ありますか。

(事務局)

2点お願いします。1点目は、評価・提案書の最終案がまとまりましたら、内容のご確認を依頼します。最終的にまとめたものは、市幹部会議への報告、議会への報告を経まして、1月

末までには、HPにて公表させていただく予定です。

2点目、次回会議は1月末に予定しています。

以上をもって会議終了。